

キク新品種「プリンセスかがわ」の育成

古市崇雄・村上恭子・松本由利子

香川県農業試験場研究報告 第56号(2003年10月) 57-60

1. 「プリンセスかがわ」は組織培養植物体に軟X線照射を行い、突然変異を誘発して育成した品種である。紫ピンク単色の原品種「ピンクセイコー」の花色に変異した赤紫色パッキン咲きで、一輪仕立ての切り花向き品種である。2001年7月に種苗法に基づき、品種登録の出願を行った。

2. 「キク特性審査基準」による特性分類では、「ピンクセイコー」に比べて、開花時の草丈がやや低いこと、茎の色が赤紫であること、葉の葉身長、葉幅値が小さく、葉の表裏面とも色が濃いこと、花の外花弁の表面色が赤紫、裏面の色が濃紫ピンクであること等で区別性が認められる。なお、生態分類型は秋ギクである。到花週数は8~9週である。低温開花性と病害抵抗性は中である。低温伸長性と虫害抵抗性は弱である。

3. 作型は露地電照、加温電照栽培に適応し、耕種概要は原品種に準じ、肥培管理はスプレーギクに準じる。1月出荷作型では「ピンクセイコー」と同程度に帯状花が2割程度発生する。

キーワード：キク、プリンセスかがわ、軟X線照射、突然変異